



写真提供：日野川フォトコンテスト実行委員会 一般社団法人 建設 国土 交通
撮影場所：西谷川橋本橋（長野県）

水のウオッチング

—表紙「春の緑水湖」—

静かな湖を風景を花の霞から眺める。

日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・15

ていがないち ていがいち 堤内地と堤外地

河川の分野で使われる用語は、その言葉から想像されるものとちょっと違ったり、感覚的に「おや？」と思うものがあります。今回はそんなちょっと紛らわしい河川用語についてお話しします。

今回とりあげるのは「**堤内地**」と「**堤外地**」です。

文字通り堤防の内側の土地と堤防の外側の土地を示す用語ですが、さて、どちらが内側でどちらが外側なのでしょう。堤防の内側だから河川敷のある川の水が流れているほうが内側というイメージがありませんか？しかし、実は逆なのです。

正解は「堤内地」＝「人の生活する側（守るべき側）」、「堤外地」＝「河川側（流水のある側）」なのです。なぜ、このようにイメージとは逆なのでしょう？

現在我々が目にする堤防は連続し、河川を堤防と堤防の間に囲い込んだ形になっていますが、かつて人間が平野に進出したときは、河川がいたるところ乱流して流れ狂い、人々はわずかな耕地と集落を堤防で囲んで洪水から守っていたのです。現在では河川改修工事が進んで平野の河川は堤防と堤防の間に囲まれているが、昔は逆だったのです。現在でも木曽川水系の下流域ではリング状の堤防で囲まれた輪中と呼ばれる地域がありその堤防は輪中堤と呼ばれています。この輪中堤をイメージしていただければ堤防の内と外が理解出来ると思います。

現在の状況から考えると内外逆のようですがこうした経緯により堤内地・堤外地という呼び方となっているのです。

